


【件名】	木下川排水機場耐震補強工事に伴う改修工事	【事務所名】	江東治水事務所	
【工事場所】	東京都江戸川区平井七丁目地内	【受注者名】	株式会社 近藤組東京支店	
【工期】	令和4年3月2日から令和7年2月28日まで	【主たる技術者名】	監理技術者 高橋 祐介	

【工事概要】

本工事は、木下川排水機場の建屋について、排水機能を確保しながら解体・新築工事を行ったものである。工事は、排水ポンプの運転・点検業務と並行することが前提であるため、仮設シェルターの設置や、プレキャスト・プレストレストコンクリート（以下PCaPC）など、特殊工法を活用した。また解体工事に伴い、予期せぬ石綿が検出されたため、十分な飛散防止対策を講じた。

【表彰理由】（※発注者側評価）

工事範囲内に排水ポンプの点検員のほか、別契約の電気・機械設備など計8社が入る難工事であったが、当該受注者が工程に関する幹事会社を務め、オンラインで工程調整を実施した結果、不要な待ちや手戻りを抑制した。また、PCaPCという経験の少ない工法の実施にあたっては、設計事務所や専門企業の、施工に関する留意点を十分に理解し、基礎鉄筋の精度確保や鋼棒の防錆処置など、品質管理に重点を置いた施工を実施した。



施工前



施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

未経験の工法への挑戦、多岐に渡る工事関係者との調整、排水機能の維持という様々な条件が重なったため、工事を前へ進めることに多くの時間を費やしました。

◇ 特に工夫した点

PCaPC部材の設置に際しては、既設構造物との接触を避けるため、玉掛作業員の操作性を高められるよう、部材を小型化（軽量化）しました。また各工事工程を調整するため、オンライン会議のリモート制御機能を活用し、工事のバツイングを回避しました。

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

初めて経験する工法であったため、多くの学術資料に目を通した結果、品質管理に関する知見が深まりました。また、多くの施工者と工程以外の意見交換を重ねることで、建設における建築分野以外の視野が広がりました。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

学生時代から多くの工学を学び、今も技術者として日々勉強です。ただ、私を動かすもの、根底にある意思は昔から変わっていません。「いいもの 創ろうぜ！」結局これなんですよ。



PCaPC部材架設状況